

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

やりとりに注目／社会福祉法人五倫会 美郷保育園

子どもたちは、様々な言葉のやりとりをしながら遊びを楽しんでいます。思うままにいろいろ話しているようでも、大人が驚くほど、簡潔に的を射た言葉で会話している場面があります。また、子どもたちが共有している言葉から、経験や学びを読み取ることによって「科学する心」が育まれている姿が見えてきます。



○ 確かめたい・知りたい／5歳児

### ✿ きっかけ

近所の畑で収穫したトマト、ナス、キュウリ、ピーマンなどの野菜を運んでいるなかで、70cmほどの大きさのユウガオを持っている子どもが「すごいな、重そうだな！頑張れ！」と町内の人の応援を受けた。「おじさん重いつて言ったね」「このユウガオ、僕よりも重いかも」「えっ？軽いんじゃないの」という疑問から、重さへの興味が深まり量ることになる。

### ✿ 場面1：量ってみよう（2kgまでの計量器・体重計）

「あれ！おかしい！」「量れないよ」「量りの針がグリーンと回って動かなくなった」「ほら見て」と、2～3回繰り返す。「壊れたんじゃない？」

「この量りで量れるものは何だろう？」と言い、ブロック、消しゴム、トランプ、ハンカチなど乗せて、量りのメモリを見て楽しむ。

「これはダメだよ。やっぱりユウガオは大きいし軽くないから、これでは量れないよ」「もっと重い物、量れるモノは？」「あっ、いいモノがあるよ、体重計があるよ！使ってみたら」ということで、量ってみると3.5kgであった。



### ✿ 場面2：自分の体重、赤ちゃんの重さ

体重計でユウガオを量ったことで、今度は自分たちの体重を量り「僕の方が重い！軽いと思ったんだけど」などと、覚えた体重を友達や先生に話す。

保育者がそこで、「自分のことを覚えるっていいことだね。今はこんなに大きくなっているけど、赤ちゃんの時は何キロだったんだろう？」と問いかけた。

翌日、赤ちゃんの時の体重をお母さんから聞いてきた子どもが話題にする。「3655gだって、ユウガオより重いよ」「僕さあ、2650gだって」「え！ユウガオより軽いよ」「ユウガオ、もう一回抱っこしてみようよ」



### ✿ 考察

重さに興味をもったことで、いろいろな量りに出会い、「確かめよう」「感じよう」とする子どもたちの姿に、「科学する

心」はここから始まるものであると実感した。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」